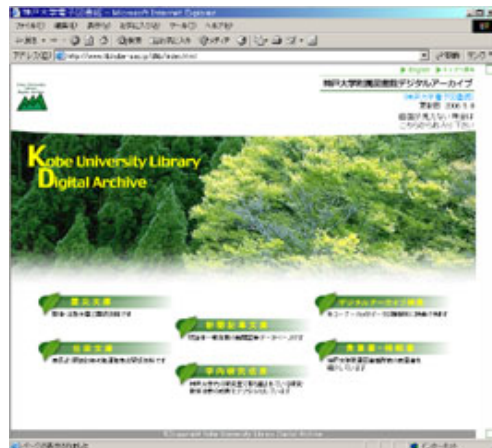


デジタルアーカイブの構築・提供

「神戸大学電子図書館」は、所蔵資料などの知的資産や教育・研究成果の「デジタルアーカイブ」を広く世界に発信し、社会に対する本学の知的資源のポータル(窓口)機能を果たすことを目指している。

平成18(2006)年度からは、学内の教育・研究成果を本格的に収集・保存・提供する「神戸大学学術成果リポジトリ Kernel」の公開を開始した。

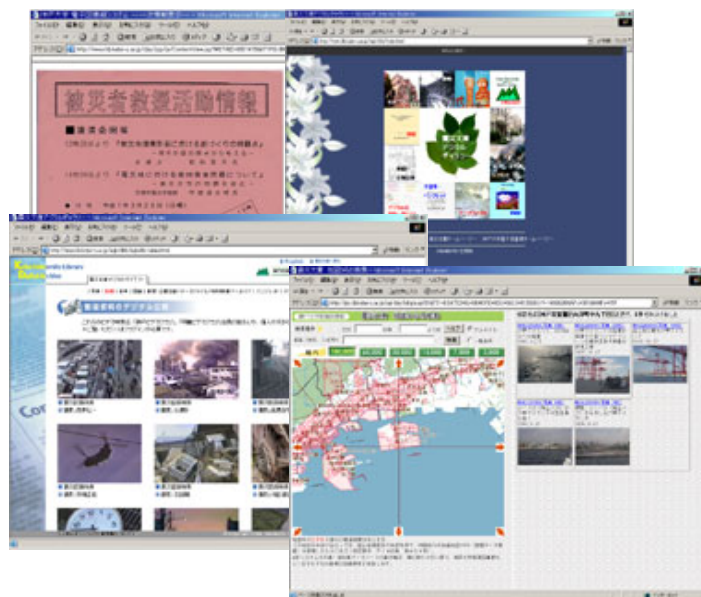


● 震災デジタルアーカイブ

「震災文庫」所蔵資料について詳細なメタデータの提供に加え、著作権者の許諾が得られた一次情報のデジタル公開を行っている。公開している一次情報は、図書約400点、写真約24,000点、一枚ものの約3,000点のほか、動画・音声・広報類・データファイルなど多岐に渡っている。(平成19年3月現在)

平成15(2003)年より「地図からの検索」機能を導入するなど、システム改良にも努めている。

本アーカイブの構築には、平成11～15年度の間、科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース名: 阪神・淡路大震災マルチメディア・アーカイブス)の助成を受けた。



● 経済関係資料アーカイブ

明治末～戦前期の新聞切抜資料「新聞記事文庫」(経済経営研究所図書館所蔵)の全文・画像のデジタル化を進め、約170000記事を公開している。本事業は、平成16(2004)年より、科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース名: 戦前期新聞経済記事文庫データベース)の助成を受けている。

また、江戸期～明治初期の海事関係資料コレクション「住田文庫」の一部をデジタル公開している。

その他、神戸港開港関係資料や各種貴重書についても進行中である。



学内教育・研究成果

「瀬戸内海海藻類標本」(内海域環境教育センター)等、神戸大学における教育・研究の成果を図書館サーバから公開している。

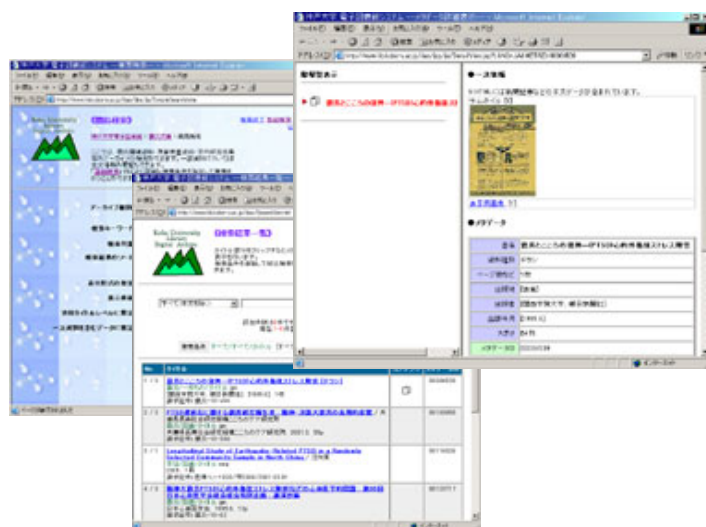
また、科学研究費報告書・学位論文・研究紀要等のメタデータ作成、一次情報へのリンク情報を提供している。



デジタルアーカイブ検索

各種のアーカイブを統合的・横断的に検索可能な「デジタル・アーカイブ検索」機能を提供している。

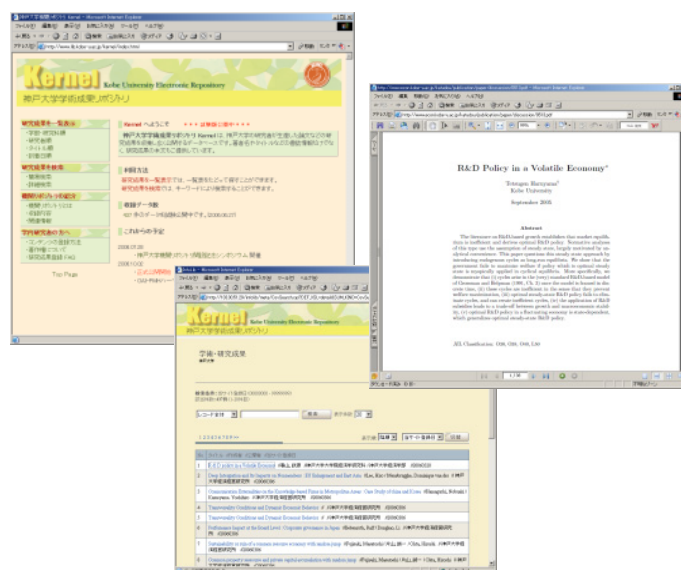
各資料に付与されたメタデータを検索し、一次情報までシームレスに到達できるシステムとなっている。



神戸大学学術成果リポジトリ

平成18年10月より、神戸大学学術成果リポジトリ(機関リポジトリ)の公開を開始した。

学術成果リポジトリでは、神戸大学内で生産された学術成果の収集公開と神戸大学および研究者の知名度向上を目指している。



展示会

■ 神戸大学附属図書館では、平成17(2005)年度より展示会を、情報サービス課情報リテラシー係が中心に担当し、開催している。

■ 平成18年度は神戸大学東アジアWeek2006の共催事業として11月10日から17日まで「東アジアのなかの日本ー古地図に見る交流の風景ー」を、社会科学系フロンティア館プレゼンテーションホールで開催した。

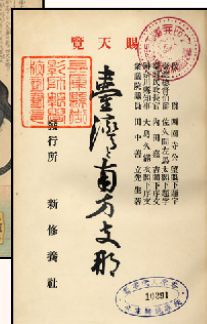


展示内容

- 1. 古地図に見る東アジア**
16世紀から19世紀までの世界地図ならびに中国・朝鮮の地図を展示
- 2. 近世の日本と東アジアの交流**
朝鮮・琉球とは通信、中国・オランダとは通商の関係の資料を展示
- 3. 東アジアの近代化と日本**
日本の開国、明治維新と近代化の資料を展示
- 4. 東アジアと神戸**
神戸における華僑の活動や孫文関連資料、東シナ海航路の発展と貿易関係の資料を展示



展示資料:『天竺舶来大象之写真』版画



展示資料:標題紙『台湾と南方支那』
1871(明治4)年

8日間の会期中、712人(うち学外者367人)が訪れ、学園祭「六甲祭」期間中の土・日曜日には天候不順にもかかわらず300人を越えた。

■ 平成19年度は第1回常設展を9月20日から12月21日まで、社会科学系図書館2階常設展示コーナーで開催している。「近代神戸の源流を訪ねてー開港と居留地ー」



今年が神戸開港から140年の節目にあたることに因んで、「近代神戸の源流を訪ねて」のテーマのもと、開港と居留地及び築港関係の資料を展示。

展示内容

- 1. 開港と居留地の成立**
16世紀から19世紀までの世界地図ならびに中国・朝鮮の地図を展示
- 2. 地図に見る近代神戸の発展**
朝鮮・琉球とは通信、中国・オランダとは通商の関係の資料を展示
- 3. 築港と海運の発展**
日本の開国、明治維新と近代化の資料を展示

■ 展示会の案内、内容等は、神戸大学附属図書館ホームページの「展示会」へ掲載。

URL:<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/tenjikai/tenji.html>

平成16(2004)年の国立大学法人化を機に「国際・教養系図書室」を、全学共通教育のための学習図書館機能を担う「総合図書館」と、国際文化学部及び総合人間科学研究科の教育・研究のための専門図書館機能を担う「国際文化学図書館」に組織を分離した。

総合図書館は、平成12年の附属図書館審議会答申「神戸大学附属図書館将来構想」にあるとおり、学習支援機能の強化と、全学の図書館の調整機能を担う図書館として構想されたものである。新館建設の構想はあるが、当面は国際文化学図書館と同一施設で運用することとしている。

この図書館は、全館室の中で最も利用対象学生が多いため入館者数も最大で、一番活気にあふれた図書館である。蔵書構成は、全学共通教育支援の役割を担っていることから、ほとんど全分野にわたる資料を収集しており、特に一般教養図書が豊富である。法人化後は学生用資料費の重点的な配分を行い、これまで以上の資料の充実を図っている。ビデオ、DVD等の視聴覚教材も揃えている。

施設に関しては、対象利用者の割に狭隘な点が大きな課題であるが、館内設備等の学習環境の改善には、法人化以前から努めてきた。平成17年度も、グループ学習室の設置、開架書架の更新(一部)、情報端末の増設等を行っている。

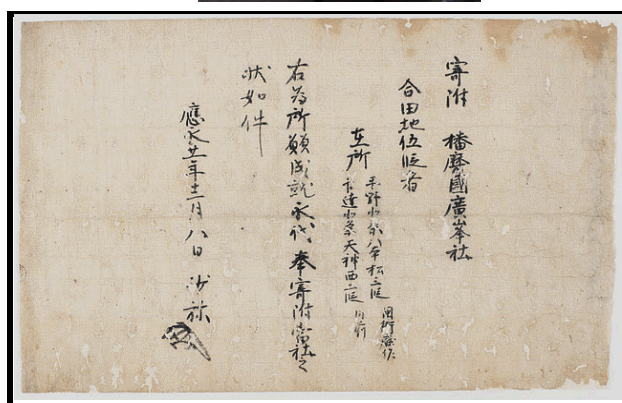
また平成16年10月からは、学外利用者への貸出サービスを実施し、地域との連携を図っている。



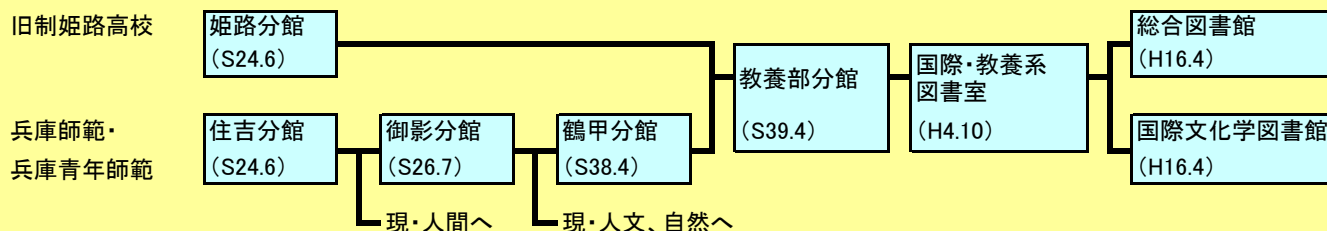
特色ある蔵書・コレクション

旧制姫路高等学校の蔵書を引き継ぎ、播磨地域の希少な古文書等を所蔵している。主要なコレクションを以下に示す。

播州関係郷土史料	播磨各地の郷土史料を主とする509種。代表的なものは以下の3種である。
広峰神社古文書	姫路の広峰神社に伝わった古文書19点、鎌倉期のものを含む。【電子図書館で公開】
浄土寺縁起	小野市浄土寺に関わる慶長年間の写本。原本を正確に伝える。【電子図書館で公開】
播州膝栗毛	十返舎一九作の江戸後期の刊本であるが、他に所在が確認されていない。
新島文庫	新島繁(野上巖)氏旧蔵の人文社会科学諸資料のコレクション 3,047点
原文庫	原弘毅氏旧蔵のドイツ文学・語学・芸術書のコレクション 1,411点
二宮文庫	二宮尊道氏旧蔵のD.H.ロレンスとT.S.エリオットを中心とする英文学書のコレクション 322点
百瀬文庫	百瀬弘氏旧蔵の漢籍を主とする中国史書のコレクション 449点



沿革



明治37(1904)年に開館した神戸高等商業学校図書館を前身とする学内で最も長い歴史と大きな規模を持つ図書館である。昭和8年(1933)、神戸高商の六甲台移転に伴って新営された現本館(国の登録有形文化財に指定)をもとに、書庫棟(1960年及び1971年)・管理棟(1981年)と増築を重ね、平成16年(2004)には、隣接して新営の社会科学系総合研究棟〈フロンティア館〉の一部(地下2階～地上3階)に待望の増築が実現した。

社会科学系図書館は、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科の社会系4部局を主なサービス対象とする専門図書館である。戦前からの蔵書を引き継ぎ、社会科学関係資料においては、質量ともに高い評価を受けている。また、人文・社会科学系外国雑誌センター及び「震災文庫」も本図書館に置かれている。

長らく課題であった施設狭隘がフロンティア館増築により解消し、開架図書室の拡充、書庫の増設、新着雑誌室・震災文庫室・貴重図書室・マイクロ資料室・情報端末室・グループ学習室・プレゼンテーションホールが整備された。また、増築を機に以下の永年の懸案を実現している。

独自の図書分類を日本十進分類に変更
学部学生の書庫利用実現
時間外開館時の利用可能エリアの拡大

本図書館は、附属図書館全体の管理運営機能(中央図書館機能)をも果たしてきた。法人化を機に「総合図書館」組織を分離したが、総合図書館新営までの当分の間、中央機能は引き続き本図書館に置かれ、附属図書館長、事務部長、情報管理課5係、情報サービス課2係が常駐している。



特色ある蔵書・コレクション

神戸高等商業学校の蔵書を引き継ぎ、多数の貴重書・古文書類、個人文庫を所蔵している。主要なコレクションを以下に示す。

住田文庫	住田正一氏より寄贈された、慶長～明治初年の海事・海運関係資料コレクション
村上文書	摂津花隈村村上家旧蔵文書
神戸開港文書	土地・海運関係や居留地の生活・行政関係
ズムマ	ルカ・パチョーリ著 算術・幾何・比および比例全書 複式簿記に関して世界で最初に出版された図書といわれる。1494年ベネチア刊の初版本を所蔵



沿革

神戸高等商業学校
— 神戸商業大学
— 神戸経済大学

六甲台分館
(S24.6)

六甲台図書館
(S55.4)

人文・社会科学系図書館
(S59.4)

社会科学系図書館
(H16.4)

自然科学系図書館は、理学部・工学部・農学部・自然科学研究科を主なサービス対象とする専門図書館である。昭和59(1984)年に当時の理・工・農各学部図書館を統合して新営された図書館である。

本図書館では、自然科学分野の教育研究活動にとって最重要資料である学術雑誌を、研究室に分散することなく集中配架し、全面開架方式と特別利用(24時間開館)によって利用の便を図ってきた。また、オンライン情報検索やCD-ROMデータベース等を先進的に導入するなど、本学図書館サービスの情報化に大きな役割を果たしてきた。最近のインターネットによる電子ジャーナル、データベースの導入においても、主導的な役割を果たしている。

一方、新営から20年以上が経過し施設狭隘が大きな課題である。しかし、当面は増築が困難なことから、館内スペースの再配置を行い、利用スペースの拡大、学習支援機能の強化を図っている。主要な改善点は以下のとおりである。

- ・サービスカウンターを2階から1階へ移設：館内アクセスの改善、開架図書室の拡大
- ・旧ロッカー室をグループ学習室に改装
- ・情報検索コーナーの拡大
- ・事務室を縮小し、開架図書室に改装

これにより、サービススペースは200㎡増加し、閲覧座席数を34席、パソコンを14台、書架収容冊数を20,000冊拡充することができた。



沿革

